

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172901456), 法人名 (医療法人社団 淳彩会 永山循環器科クリニック), 事業所名 (医療法人社団 淳彩会 永山循環器科クリニック グループホームやすらぎの里), 所在地 (旭川市永山4条4丁目9-1), 自己評価作成日 (平成28年10月5日), 評価結果市町村受理日 (平成28年11月24日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が運営している為、医療連携が取れやすい。また法人の院長は毎日ホームに来所して利用者の様子を見てくれ体調の把握に努めてくれている。24時間医師との連絡が可能で、緊急時の対応がスムーズで利用者、職員共に安心できる。町内の方が運営推進会議に参加され、貴重なご意見をいただいてケアや業務の改善に繋がっている。また町内の夏祭りや新年会などに利用者様が参加され、ホームの夏祭りに町内の方々に参加されたりと地域とのつながりを大切にしている。利用者様は自分の出来ることを手伝ったり出来ないことは手伝ってもらいながら共同生活での役割を担っている。最後まで自分らしくと要望がある方やご家族の希望があればターミナルケアも行なっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172901456-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成28年11月2日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and their evaluation.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、申し送りのときに理念の唱和を行い職員間で共有するようにして業務に活かせるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して行事などに参加するなどしている。また施設の夏祭りなどにも来ていただいている。町内会総会や親睦会の参加も欠かさずに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会館の鍵を預かり、憩いの家の運営などの支援をしている。地域の方々と同様になれるよう機会を増やしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開き、町内や関係各所の方々との意見を交換しあい、助言をいただきながらサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えるながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターや他の事業所と2ヶ月に1度会議を行い、情報交換して情報共有を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けて2ヶ月に1度の職員会議で必ず話し合いを行っている。また年に1度は職員が身体拘束に関する研修に参加後、他職員に報告して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設けて2ヶ月に1度の職員会議で毎日のケアの中で虐待が見逃されていないかを話し合いをしている。職員は研修に参加後、他職員と共有を図り虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は契約時などに成年後見制度の説明をご家族にしている。職員には研修に参加して職員会議で他職員と共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定などの際は、利用者、ご家族に不安や疑問点など無いか尋ねながら説明を行ない理解してもらうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会票に意見欄を作るなどして意見の収集を図っている。またご家族が来られた時に近況報告をすると共に意見や助言を頂ける様にしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1度職員会議を行い、職員の意見や提案を開く機会を設けている。又各ユニットごとに必要に応じてカンファレンスを行い運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や給与・労働時間、教育など働きやすい環境の保全整備に努めている。研修や資格の取得などとりやすい様にシフトも考慮して向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や経験に応じて外部研修に参加する機会を設けている。新人職員には認知症の研修を義務付けをして、働きながら資格取得に向けた研修にも積極的に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は旭川ケア研究会の代表もしており、研修会の開催もして職員が他同業者と交流できる機会を作っている。交流を通じてサービスの質の向上に役立つように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人と面談して困っていることが無いが、不安なことや要望を聞いて家族からの要望にも耳を傾けながら本人との関係づくりに努めている。可能であればホームに来ていただき設備や雰囲気などを見てもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始する前に面会をして家族の困っている事、不安なことや要望などを聞きながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、医療機関や介護事業所などからこれまでの生活状況又は情報を頂き今、必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の出来ることと出来ないことを見極め手助けしている。本人の長年培われた技術や会話から職員が教えられる事も多く、共同で生活する関係に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの生活習慣や生活歴などを入居時に詳しく聞いて共に支える関係を築くように努めている。家族の方が来訪時には普段の生活を伝えて相談や助言をいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、知人がいつでも気兼ねなくホームに来られるようにして、外出はいつでも自由に家族と出来るようにしている。本人の希望は出来るだけ支援して馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員が把握して、孤立しないよう職員が関わり合えるよう支援してより良い関係性を築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要に応じて管理者やケアマネージャーが家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用して本人の希望や意向の把握に努めている。認知症の進行もあり希望、意向の把握が困難なときがあるが本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に本人や家族からこれまでの生活歴や生活習慣、環境等を詳しく聞き、居宅のケアマネージャーや相談員からも情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人別の介護日誌に日常の生活を記録して心身の状態、暮らしぶりを把握するように努めている。記録は職員同士で共有しケアに役立てている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、こまめなケアカンファレンスで職員同士話し合う機会を増やしている。本人や家族にもその都度意見を伺って介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌に日々の様子やケアの実践を記入して職員間で共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて可能な限り柔軟な支援やサービスに努めて様々な状況に対応していくようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事に参加したり、近くの保育園児との交流があり職員と近くのスーパーやお店に行くなどして地域との関わりを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であるため主治医は法人の院長であることが多いが本人や家族が希望すれば他のかかりつけ医の受診も支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設長が看護師であり日常のケアの中で気付いた事や体調の事など毎日報告や相談が出来る。体調の変化があれば適切な受診や看護が受けられる体制で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して治療できるように情報を提供して入院中でも家族や病院関係者と連絡を取り合い、早期退院に向けて支援に努めている。主治医である院長からも情報提供があり医療機関との良好な関係が作れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行けることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りについての説明を行ない重度化した場合には終末期に向けて家族と話し合いを行っている。ホームでの看取りを希望される場合は職員間で方針を共有、本人の意向を確認しながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回救急救命講習を行ない(AED、心肺蘇生)を実施して職員全員必ず1回受講するようにしている。また急変時や事故発生時に備えたマニュアルを用意して職員間で共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日勤帯と夜間帯を想定した消防避難訓練を行っている。その際には町内会の方々にも参加協力していただいている。また緊急連絡網にも入っていただき協力体制を築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重して誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。虐待防止委員会ではお互いの言葉使いや対応について職員会議で話し合いを繰り返し行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望が表せるような雰囲気作りや職員の声掛けに努めている。また日常のかかわりの中で自己決定出来るように支援して本人の思いが汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に体調や気持ちに配慮しながらその人らしい日々の暮らしが送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に協力してもらいながら季節にあった服装や好みのおしゃれが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の献立や旬の食材を使い、一人一人が食事を楽しめるよう、またその人に合った形態で食事を提供している。その人の持っている力を活かし食事の準備やかたづけを一緒に行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事は記録して全職員が把握、1日を通して確認出来るようにしている。栄養士がメニューを考え、栄養のバランスを取れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりに応じた声掛けや介助をして口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間や回数など、記録から一人一人の排泄パターンの把握に努め、自力での排泄やパットの使用を減らせるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を記録して職員が把握、腸が活発に動くような体操を取り入れたり、水分を取るよう工夫したりして個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回、個々に行なっている。体調や本人の希望により時間や曜日を変更している。シャワー浴や清拭も行い清潔保持に努めながら個々にそった支援に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝時間や室内の温度、湿度、部屋の明暗などに対応している。休息の仕方も個々に併せて行い、生活リズムを作り安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の使用している薬の目的、用法や副作用を把握していつでも確認できるようにしている。症状の変化や薬の変更があれば管理日誌に記入して職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力に応じて日常生活の中で出来ることをしてもらい、張り合いや喜びを感じてもらい、家族が持ってきてくれるお菓子やスーパーに買いに行き嗜好品、楽しみごとの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーや大型量販店、回転寿司など戸外に出掛ける機会を作り支援している。本人の希望を把握して家族と協力しながら出掛けられるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて現金を所持している方もいる。ほとんどが事務所で預かり、買い物の際に職員見守りまたは介助で本人に支払いをしてもらえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すればいつでも電話をかけられるようにしている。本人かけられないときは職員が介助してやり取り出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では居心地良く過ごせるよう利用者同士の関係性も考えて席なども考慮している。音、光、温度や湿度の刺激にも注意して季節感などを取り入れながら居心地良い空間で過ごせるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士でテレビを見たり、談笑が出来るように、また一人になりたい人がいればその空間がもてるようなソファの配置に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが入所時に馴染みのある家具や寝具、写真や小物など思い出のある物を持参してもらい本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており廊下には手すりを設置、トイレや各居室には表札、表示でわかりやすくして安全に自立した生活が送れるように工夫している。		